

■ 日程・概要

ツアー参加者は前日に近隣都市クラカウ（ポーランド語ではクラクフ）の駅前のホテルに集合し、翌日バスでアウシュビッツへと向かいました。

アウシュビッツ研修旅行						8月10日		
日次	月日	曜	都 市	現地時刻	交通機関	摘 要	<宿泊地>	食事
①	9月2日	木						B-X L-X
			クラクフ 着				<クラクフ泊>	D-X
②	9月3日	金	クラクフ 発 オシフィエンチム 着	8:30 10:00~13:00 13:00~14:40 14:40~16:30 17:00 20:00	専用車	ホテルのロビー集合、ガイドと合流してオシフィエンチムへ 午前：アウシュビッツ強制収容所跡見学 記録映画、収容棟、身の回り品の展示、ガス室、焼却炉など 昼食（レストラン）「Art Deco」 午後：アウシュビッツ収容体験者（Mr. Smolen）のお話（予定） 国際青年交流センタースタッフと懇談（予定） 夜：夕食（センターで） <オシフィエンチム泊>		B-H L-RL D-H
③	9月4日	土	オシフィエンチム	9:30 10:00~12:45 13:00~14:40 20:00	専用車 専用車	センターのロビーに集合、ガイドと合流してビルケナウへ 午前：ビルケナウ強制収容所跡見学 収容棟、引込み線、破壊されたガス室と焼却炉 昼食（レストラン） 午後：自由行動（アウシュビッツまたはビルケナウまで送迎します） 夜：夕食（センターで） <オシフィエンチム泊>		B-H L-RL D-H
④	9月5日	日	オシフィエンチム 発 クラクフ 着	10:00 11:00	専用車	センター発 クラクフ市内到着（1日目にお泊まりになるホテルを予定しております）		B-H L-X
B=朝食付、L=昼食付、D=夕食付、機=機内食 H=ホテルで RL=市内レストランで 機=機内食 OP=オプション・ツアー（希望者参加の小旅行、別途料金） サ=サンドイッチ 弁=弁当								

●=入場して見学、◎=下車して見学、○=車窓から見学

旅行社の日程表から抜粋

1日目は、

- ・第1収容所の展示見学
- ・収容体験者 スモーレンさん（当時90歳）のお話
- ・国際青少年交流センターの見学

*懇談の予定がスモーレンさんの話が長引いて見学と説明のみに。

そして、スペシャルゲストで、わざわざ宿舎までいらしていただいた日本人唯一のアウシュビッツ博物館の公式ガイド、中谷剛さんのお話も伺う機会もありました。

いろいろな角度から、いろいろな立場の、いろいろな意見を聞いて、結局、この地で起こったことはいったいなんなのか？何が原因なのか？誰が悪いのか？誰もが混乱しはじめていました。

そして、釈然としない思いを抱えたまま、翌日の午前中に、ビルケナウ第2収容所へ。

ここは「殺人工場」とも称されます。

列車で運ばれた人たちがベルトコンベアーにのるかのように、手順にしたがって合理的にガス室へと送り込まれた場所。

多くのユダヤ人が詰め込まれた列車、線路、収容者のバラック、破壊されたガス室、そこにあるものすべてが、みる人の心のなかにずっしりとした何かを語りかけてきます。

個人的な話ですが、私が以前ビルケナウに来た時はまったく予備知識がなく、初めて見る風景があまりに広大で、恐ろしくて、もう二度と来るものか！と思ったのですが、それから10年以上経ったいま、歴史の背景を知ると違った見方ができます。正面で向き合えることもあります。やっぱり向き合えないこともあります。けれども、ここで起こったことは、まぎれもない事実。

あまりに多くのことを見てきたため、帰国した直後は正直、「消化不良」でした。しかし、その「消化不良」をゆっくりと直していく、それが歴史を知ることなのだとないかと思いはじめています。

そして「消化」がどこまで進んだのか、それを確かめるのも、今回このツアーの記録を見直し、公開しようとしたきっかけでもあります。



第2収容所ビルケナウを回る立花先生